

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームとういん
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	三重県員弁郡東員町鳥取1308-1
記入者名 (管理者)	藤井 勇
記入日	平成20年7月16日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型の大切さを職員間で確認し、事業所と地域との連携充実を志向する理念をつくっている。理念「思いやりの心を大切にし、その人がその人らしく地域で生活することを支援していきます」</p>	○ 今後、さらにキメ細かく交流し地域事業者・自治会・学校・行政の輪を広げる。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員のミーティング時等では「理念」を具体的に掘り下げ、1つ1つのケア及び地域交流について協議している。又、業務日誌に理念を表示し意識付けをしている。</p>	○ 「その人 お一人、お一人」の暮らしぶりを大切にして行く。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族の来訪時には、事業所のモットー(少人数・家庭的等)を伝えている。又、入居相談の方々にグループホームが「地域資源」であることを説明している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所のスーパーやお隣のコンビニへ職員と入居者が出掛けて買い物をし、交流の輪を広げている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の老人会役員さんが敬老の日等に訪ねて来て下さったり、地域の小学生が遊びに来てくれるなど、地域との交流がある。</p>	○ 地域の自治会・老人会及び民生委員の方々と接点を増やしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者が地域連携相談所を定期的に訪問し、お役に立てること等について話し合っており対応している。又、人材育成の貢献として実習生の受入れも積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	3月に引続き2回目の受審であり「受審計画」を作成し、管理者から「理念の大切さと実践の記録の徹底」について説明している。	○	全体カンファレンス及び毎日2回(朝・夕)の申し送りの機会を利用し、1つの事例を取り上げて「評価」の大切さを深めている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員には運営推進会議のテーマ及び協議内容等について説明し、一つひとつサービスの向上につなげている。	○	会議への出席者の幅を広げられるよう検討する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者自らが月1～2回東員町役場の担当課及び社会福祉協議会を訪ね、情報交換等を行っている。又、行政域内・外の介護にかかわる状況についても交流している。	○	行政と連携し、地域の介護サービスニーズについて幅広く情報を収集し、「入居」へつなげたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行政のパンフ等を利用し、入居者それぞれの必要性について話し合いをもっている。	○	身元引受人さんの健康状態も勘案し、早目に情報発信を心掛けて行く。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常業務(特に申し送り時間)を通して高齢者虐待防止法に関する理解を深める取り組みをしている。「声かけ」ひとつが大切であること(基本)をくりかえし確認している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約に関しては必ず面談を行い、契約書・重要事項説明書等の読み合せはもちろん、十分時間をとって丁寧に対応している。</p>	<p>○</p> <p>契約の前段階としてグループホーム入居相談書の書式を設定し、特に不安・疑問点があれば記述し次に生かしている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の言葉や行動からその思いを理解するよう努力し、一人ひとりに合ったケアを心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議等を利用し、外部委員の方々とも直接ふれ合っていたいただき、そうした機会を提供する。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「定期便」として管理者自らがソフトタッチの便箋を使用して、ご家族へ暮らしぶりをお届けしている。又、小遣い帳のフォームを改正し、ご家族の確認を頂いている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族来所時には、その間の状況について報告し要望等もお聞きしている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には手紙や来訪時に常に話をうかがい、何でも言っただけのような雰囲気づくりに努めている。又、意見・要望等は職員で話し合い反映させている。</p>	<p>○</p> <p>行政及び国保連等、相談の苦情窓口を重要事項説明書に記載している。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンス・申し送り時間及び行事の時の集まり等、あらゆる機会を利用して意見を収集し運営に生かしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務に関する情報の一元化を行い、行事及び外出(含、通院介助)の状況に応じ調整を素早く行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>1ユニットであり職員はほぼ固定し、顔馴染みの職員でケアをしている。新しい職員は入居者にきちんと紹介し職務についてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>引続き、職員の確保及び定着に努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の事業所の見学や外部研修会には参加できるようにし、研修報告書は職員が閲覧できるようにしている。又、社内研修の一環として職員の持ち回りでケース会議、行事、講師を招いての研修をとり入れている。	○ 「研修の企画」に職員自らがかわることで研修そのものが生きたものになって来ている。併せて外部研修への派遣も進めて行く。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心に地域事業者との連携強化の為、ネットワーク作り及び有志による勉強会等、活発に推進している。	○ 三重県介護支援専門員協会及び三重県グループホーム連絡協議会へ加入し、活動の輪を広げている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	面談時や日常の表情等で職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。それらを勤務の組み方に反映している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者(代表)は、明るく元気な姿を見せることに努め、職員一人ひとりと交流し、状況を把握している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	介護支援専門員がご本人のおちつける場所へ出かけ、顔馴染みの方々を交え、約60分アセスメントを行い困り事等を傾聴し受け止めている。	○ 可能な範囲で2～3回、入居までに日中の見学会等、接触の機会を設けるよう心掛けている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の不安及び求めているものをゆっくり・ゆったりと傾聴するようにしている。話をうかがうことでおちついてもらい、次のステップへつなげている。	○ 入居時点及び1～2ヶ月経過時点で話し合いの場を設定し、信頼を得るように努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人・ご家族の思い等を確認し、改善に向けた提案・相談を繰り返すことで必要なサービスへつなげている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずはご家族と一緒に見学に来ていただき日中、入居の方々と過ごすことで慣れてもらっている。その間、ご家族から聞き取り等を行っている。	○	現在の取り組み～ショートステイとの共存・共有化～を継続し、馴染んだ状態を勘案し「入居への橋渡し」を働きかけている。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を薄め、お互いが「協働」しながら和やかな日々が暮らせるよう場面作りや役割づくりをしている。	○	初期に比べ入居者は増加しているが、入居者間での「関係」が固定化(専有化)しないよう居場所の工夫等、柔軟に対応している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者ご本人の様子や職員の思いをお伝えすることで、ご家族と職員の思い・願いが重なり合い協力関係が前進している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の思い、ご本人の思いを各々に受け止め(帰宅願望等々)、両者の思いが結びつくような働きかけに努めている。	○	体力の変化及び症状の進行等に合せ「関係」が変わってくることも十分留意し、双方向のかかわり方の支援を継続する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区の老人会役員さん、継続して来ていただいている地域の理美容師さん及び複数のボランティアさんとの交流が継続している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話をもつようにしており、入居者同士の関係がうまくいくよう調整役として支援している。	○	それぞれの「関係」が柔軟性を保てるようテーマをもって「変化」へも対応できるようにしている。回想法もとり入れ生き生きとした姿を表現して頂いている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	管理者を中心に他の事業所へ移られた方及び入院退居の方にも継続的なつき合いができるよう心掛けている。又、ご家族との交流も続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに対して声かけ、傾聴し把握に努めている。表情・行動の変化等から、その真意を推察し、それとなく確認するようにしている。	○	ご本人の体調・意向をくみとり、午後は体操及び歩行をとり入れたリハビリを意識して行っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント等を中心に、ご本人やご家族、及び関係者(可能な範囲で)からの聞き取りに努めている。特にご家族との関係・距離感については留意している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の暮らし方の中で「できないこと」より「できること」に着目し、その方の全体像の把握に努めている。	○	一人ひとり、思い思いの生活に一層近づけて行く。又、時には持ち場や役割りを変更して「変化」を観察し、次へ生かしている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中で思いや願い(意見)をお聞きし、職員で意見交換し状況を確認し、ケアプランに反映させるようにしている。	○	月次のモニタリング及び業務申し送りミーティングに説明し、職員のベクトル合せを図っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況・効果等を評価し、ケア記録で入居者の状態の変化やご本人・ご家族の要望に応じて見直しを行っている。	○	モニタリングシートを改善し、評価の明確化とケア内容の変更を一元記録することで、わかりやすくしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化は個人別介護・ケア記録に確実に記入し職員間の情報を共有している。又、申し送りのノートも併用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人・ご家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、一人ひとりの満足を高めるよう努力している。	○	生活保護・介護放棄等の案件に対しても地域のニーズを受け止め素早く対応して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域住民の演芸ボランティア公演、小学生有志の交流会、運営推進会議時の民生委員、自治会長さんとの交遊、消防署との避難訓練等々を実施している。	○	地域の行事・催し物への参加も検討する。又、行きつけの喫茶店、お店への買い物の回数を増す。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	馴染みの理美容師が定期的に来ていただけるような配慮をし、生活に張り(美しくなる)が生まれるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域で起っている介護放棄・虐待の事案に関し、行政・包括支援センターからの要請に基づいて対応している。	○	隣接団地の急速な高齢化に伴って、ニーズは確実に増すと予想されるので、しっかり受け止めて行く。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は希望に応じて対応している。基本的にはご家族同行となっているが状況に応じ職員が代行している。	○	グループホームの生活ぶりも併せてお伝えし、双方向の情報交換に取り組む。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	グループホーム昼勤の看護職確保と並行して地域の看護事業者との提携も検討する。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化に関する意志確認を専用の書面で行えるよう検討する。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	容態の急変等については提携医療機関と密に対応している。
49	<p>○</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング及び資料の回覧を通し、職員の意識と知識の向上をはかると共に、管理者が点検しプライバシー確保の徹底に取り組んでいる。	○ 「言葉」の大切さを常に意識し、トーン・タイミング等に留意し、日々のケアに生かしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が決めるのではなく、ご本人が選べるよう提案し、おやつ・レク活動・日光浴・お出かけ等、ご自分で決めるように働きかけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調にも配慮しながら、その時々々の気持を尊重し、できるだけ個別性に配慮した支援を行っている。	○ 「少人数・家庭的」な特長を生かして個別対応をさらに推進する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時の整容・洋服選び等はご本人主体で行っている。理美容は馴染みの地域の方に毎回来ていただいて会話も弾みながら楽しんでおられる。	○ 髪型・顔そり・毛染め等はご本人の希望に沿って理美容師が行っている。その日が来るのを心待ちにしている人も多い。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に合せオリジナルメニューも組合せ、完食を目標に楽しんで食べていただいている。一方、準備・配・下膳等をご本人の状態に応じて行ってもらっている。	○ 食事前の嚥下体操も昼食時を中心に励行し、おいしく・安全に食べていただけるよう努めている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ時の飲み物等については、ご本人の希望を聞いて提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に関してはデリケートな点も考慮し、個々に合せ「自立」をベースに支援をしている。夜間はトイレ誘導及びポータブルトイレの設置も行っている。	○	自室は「トイレまでの位置関係」も重要な要素としてとらえ選定している。今後も組替えながら「安心してトイレへ行ける」よう環境面の支援を続けて行く。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の希望(入る・入らないを含め)を聞きながら対応し、少人数のメリットを生かし「その人」に合わせた入浴を楽しんでもらっている。	○	入浴は楽しみながら入っておられる。湯舟につかりながらの職員と会話も弾み「感謝の言葉」も多くいただいている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不眠時にはリビング等で職員が傾聴し、書き物をすすめ、状況によっては添い寝をして不安感を鎮められるよう支援している。	○	入眠剤の服用者は今のところいない。今後も生活リズムが安定するようメンタルケアを含め取り組んで行く。
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	体力・気力に合せ一人ひとりの得意分野で持ち味を発揮してもらい、終わられたら感謝の言葉をお伝えしている。	○	「役割」が変化しても受け入れてもらえるよう、その時々に応じ職員が意識的に「切替え」も行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より小遣いを預る仕組みを利用されている人にも、喫茶店等での支払いは(可能な範囲で)ご本人でされるよう配慮している。(ご自分でお金を使っただくことを支援している)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の気分や体調に応じて季節を直接感じてもらえるよう、買い物・○○狩り・ドライブ及び日光浴・なじみの喫茶店等多くの支援プログラムを実施している。	○	戸外へ出て各人が楽しめるようなプログラムを継続し、増やす。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「行楽に出かけたい」と言った要望があった時は、職員で検討し支援につなげている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等への手紙の往復書簡に類したことをしておられる入居者もいる(返事が届くと、とても喜ばれる)。又、時には電話もされている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客(家族含む)の方々に気楽に過ごしていただくよう自室及びリビングにプライベート空間を作り対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り時等を利用し、その日のケアを振りかえり、自覚しない拘束がなかったかどうか点検している。	○	ベッドからの転倒リスクの高い人については、ご本人・ご家族とよく話し合い、状況に応じて畳敷きの対応をし、安全・安心を確保している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を工夫し、日中玄関の鍵をかけている時間は最少限にとどめている。	○	鍵をかけている時間を最少限にとどめるよう努める。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアの職員が見守っている。2Fで過ごす入居者には、その人に合わせ確認を行っている。夜間は起きられたら対応できるよう職員の居場所を工夫している。	○	見守りの目線を切らぬよう、常日頃の入居者個々の行動パターンの把握に努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況を勘案し、さりげなく注意を促していく等、ケース毎に対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの心身の状態から予測されるリスクを分析・検討し、誤嚥・転倒等の事故を予防する為の工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	行政や消防署の協力を得て、救急手当等研修を実施している。	○	社外研修(包括センター主催の介護予防等々)への職員の参加を増やす。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認、及び消火器・通報器の使い方を定期的に訓練している。	○	お隣りの24時間営業のコンビニとの交流もはかりながら、いざという時の協力を強めて行く。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	生活の中での役割等でリスクはあるものの、その方の力の発揮等につながる点も説明し、ご家族にも見てもらったり、具体的に説明している。	○	入所生活リスクに関する同意書も活用し、一人ひとりに起こりうるリスクを説明すると共に、行動(動く)する大切さも共有するよう努めている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の状況は職員が把握しており、行動・表情等の変化が見られる時はあらためてバイタルチェックを行い、記録し、状況によっては医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに整理し、職員が必要時内容を把握できるようにしている。服用時はきちんと服薬を確認し、記録している。	○	朝・昼・夕食後それぞれの専用の薬箱を整備し、わかりやすい薬の管理及び与薬を心掛けている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫及び水分摂取で自然な排便ができるよう取組むと共に、声かけによる動機づけ及び日中、身体を動かす機会を多くしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの一人ひとりに声かけを行い、状況に応じて介助を行っている。就寝時は義歯の洗浄を働きかけている。	○	一人ひとり時間をかけて丁寧に洗面台で義歯を外して口腔ケアを行っている。又、整容の機会にしている方もいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせたメニュー及び食事を考慮して提供し、摂取量等について記録し、必要に応じ申し送りを行っている。水分は飲み切ってもらおうよう声かけしている。	○	月初に体重測定を行い、増減を確認している。必要であれば食事量の調整へつなげている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	行政(三重県桑名保険所)と連携し、感染症について情報収集を行い、早期発見・早期対応に努めている。又、ご本人・ご家族に同意いただきインフルエンザの予防接種を受けてもらっている。職員も同様な対応をとっている。	○	感染症対策としてペーパータオルの使用徹底及びご本人が帰着時の手洗い・うがいを励行している。又、食器・調理用具は専用の設備で高温処理を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具・食器等は毎回、乾燥機に入れて清潔にしている。又、食材の残りは鮮度や状態を確認している。	○	ふきん・調理専用エプロンについても消毒し、乾燥機で高温処理をし清潔にしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に駐車スペースを確保しており、来訪をいち早くリビングからもわかるような配置になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング及び廊下の一定区間に行事・行楽及びレク活動時の作品等を入居者の方々と一緒に展示して、いこいの空間作りを進めている。	○	季節毎の飾りつけも行っている(お正月・七夕・クリスマス等)が、作品の増加と展示の充実を推進する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はショートステイの方々と過ごす時間を持つことで、お仲間を広く選べるような配慮もしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際して「ご家族の皆様へ」の書面を説明してお渡しし、愛着ある品物を持参されるよう働きかけている。	○	一目でわかる大物(イス・布団・棚等)も持ち込んでいただくよう要請している。又、趣味の短歌をカラーコピーしたり、自身のぬり絵をドアに掲げると自室認知度が上がった実例も経験している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	乾燥肌の方には暖房控えめとし、寒さに敏感な方には暖かい席へといったキメ細かい配慮をしている。又、必要に応じ、加湿器を使用している。	○	必要に応じ窓を開放して空気の入替えをしている。
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ及び洗面台は廊下に出て用を足すようなレイアウトにして、極力移動範囲が日常生活の中で広がるように配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「どうしたらご本人の力でやっていただけるか」を念頭に環境整備に努めている。状況の変化に応じて職員で話し合い、安心・安全が得られるよう取り組んでいる。	○	常に「変化」するものであるという認識を職員が共有するよう努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節の良い時は朝、外へ出て日光浴をしている。又、昼間、庭の手入れ等も楽しみながら行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①少人数で家庭的な雰囲気を大切にし、職員もユニフォームではなく私服を着用している
- ②日中の一定時間は併設しているショートステイの方々と交わることで交遊関係の固定化をやわらげ、より弾力的なお仲間作りに意を注いでいる。
- ③お一人お一人の役割り・居場所づくりを大切にし、レクリエーション・リハビリテーション及び家事全般にわたって、それぞれのペースで「参加」していただいている。
- ④「この大空をぬけ、心かよわせ、いっしょに生きてゆこうね」を合言葉に暮らして行きたい。